

民主党は4日、同日予定していた集団的自衛権に関する党内議論を来週以降に先送りした。行使容認への賛否をめぐって党内の亀裂が深まっているためだ。容認派は党があいまいな姿勢をとり続けることに不満を募らせている。

「今日は議論の時間がありません」。4日の党安全保障総合調査会と憲法総合調査会の合同会議。この日は政府からのヒアリングが長引いたとして、責任者の北沢俊美

# 集団的自衛権 民主は亀裂拡大

## 前原氏ら安保基本法 菅氏らは反対集会へ



4日、集団的自衛権の行使容認派の勉強会であいさつする前原元代表Ⓔ

に出るのも懸念したとみられる。

4日には元防衛副大臣の長島昭久氏が安全保障に関する勉強会を開催。

前原誠司元代表や細野豪志前幹事長、松本剛明元

外相ら12人が集まり、行使容認を法的に位置付ける「安全保障基本法案」の骨子を了承した。前原氏は会合で「民主党は集団的自衛権は全て駄目だと決めたわけではない」と主張。出席者は今国会への議員提出をめざす考えで一致した。

慎重派も独自の行動を取り始めた。5日には菅直人元首相や、赤松広隆衆院副議長ら旧社会党出身議員らが集会を開く。行使を認めないよう執行部に要請する方針だ。

元防衛相、枝野幸男元官房長官は「先送り」を決めた。

会議には菅直人元首相ら慎重派の姿が目立ち、北沢氏らは意見対立が表